

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 はなあかり)

事業所番号	0290300110		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム 妙水苑		
所在地	青森県八戸市大字妙字分校43		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.aokaigoiyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0290300110&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域との関わり合いを重視し、地域の一員として、その人らしい生活が出来る」という理念を心掛け、常に笑顔で接する様に心掛け、また敷地内に畑があり、スタッフと一緒に野菜などを植え、収穫を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設内に日差しが入り、とても明るく、ウッドデッキが広く作られており、日光浴やお茶を飲むなど、外出気分が充分味わえるような工夫をしている他、各自室にトイレが設置してあり、誘導等のプライバシーにも配慮している。職員の笑顔も素晴らしく、利用者との良好な関係がうかがえる。スプリンクラーの設置、IHクッキングヒーターを用いての調理など防災策を講じている。無記名で施設利用の満足度調査を行い、改善方法に工夫を凝らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己外部 項目		自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域密着型サービスを反映した理念作りを行った。地域との関わり合いを重視し地域の一員として、その人らしい生活が出来る理念を作成し、掲示または周知に努めている。	地域密着型サービスを反映した理念を2年前に職員で話し合い作成しており、ホールに掲示する等、全職員が共有化し、理念の実現を念頭にサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・春まつり、納涼祭等を実施、また地域の祭りに参加して交流を図っている。	地域のイベントに参加し、町内住民や民生委員等、行事へ参加してもらえるよう働きかけ交流を図っている。また、ボランティアの受け入れや見学等積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや見学等積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、情報交換や報告を行いサービスの向上に努めている。また地域の行事等へ積極的に参加して行くよう努力している。	2ヶ月に一度の運営会議には、市職員、町内会、家族代表が毎回参加している。自己評価や外部評価の結果について説明し、指導助言等も頂き運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で毎回参加して頂き、指導、助言を頂いている、また、連携を密にし協力関係を築くように努めている。	年4回広報誌を発刊しており、関係機関や地域へ配布している。運営会議には、市の介護保険課職員が毎回参加しており、会議を通じて行政との連携を深め、協力関係を築くように努めている。	

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束の内容やリスクについて、内外の勉強会を通して、全職員が十分理解を深めるように努めている、またやむを得ず身体拘束を行う場合には、家族への十分な説明と同意を得るように努めている。	管理者・職員は身体拘束やその弊害について理解しており、身体拘束は行わない姿勢でケアを提供している。玄関居室には施錠しておらず、玄関扉には鈴をつけ、職員が出入りを察知できるよう配慮されている。併設する施設とも連携を図り、地域にも協力をいただくよう働きかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の実施等を通じて、全職員が虐待防止法の概要について理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度の概要を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は利用者や家族の意見を聞き、十分な説明を行っている。 ・退去時の際には利用者や家族等に不安を感じさせない様、退居先に情報提供を行う等の支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の担当者を決めており、目の届く場所へ掲示している。また意見等があった場合には会議、推進会議で報告している。	重要事項説明書に施設内外の苦情受付窓口を明記し、施設内に意見箱を設置している。利用者から施設利用の満足度調査を無記名で実施し、意見を収集している。出された意見はユニット会議等で検討し、改善する体制が整備されている。	

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス時に意見や提案等を話し合う機会を設け、反映するように努めている。	職員から出された意見は、ユニット会議とグループ内会議を経て、段階的に運営に反映されるよう体制を整備している。利用者と馴染みの職員を把握しており、異動は極力行わないようにしており、職員からの意見を尊重し運営に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を各職員が自己チェック出来る書類を配布し自己改善をしやすいように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・勉強会や講習会を定期的に行い、職員が勉強する機会を確保している。 ・研修受講後は伝達講習会を行い全職員に周知するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	八戸市のグループホーム協議会やネットワークに加入し、同業者の交流、連携が確保されている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、本人の希望や要望、ニーズを把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、ご家族の不安なこと、要望等を聞き出し、また相談しやすいように努めている。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族のニーズに対し適切に対応出来るよう、他のサービスも含め話し合い、対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と暮らしを共にする関係、また信頼関係を築いて、行けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも相談、連絡を密にし、ともに支えていく関係を築くよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて馴染みの場所へ出掛けられるように支援している。(美容院等)	入所時に利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等の情報収集に努めている。電話や手紙が寄せられる利用者については交流の継続を促し、支援している。本人の希望に応じて住み慣れた場所へ出かけられるよう支援し、配慮に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、孤立することなく、また、楽しく過ごせるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族からの相談や問い合わせは、丁寧に対応、支援出来るように努めている。		

自 己 外 部 部 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向の把握が出来るように努めている。	カンファレンスで、利用者の日々の言動を確認し職員間で把握し、必要に応じて家族等からの情報収集を行っている。意向が十分に把握できないときは、利用者の言動変化から、職員間で送りノート等で情報を共有し把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴等については、家族から情報収集し把握している。また個人ファイルを作成し、全職員が把握しやすいようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムの把握や観察を行い、出来る事や出来る力の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はカンファレンスを行い、全職員の意見や気づきを基に十分話し合い、作成、見直しを行っている。	介護計画作成時は、利用者の意見を必ず聞き、カンファレンスを行い、職員間で意見や気づきを基に話し合い、利用者主体の個別で具体的な介護計画を作成している。利用者の身体状況の変化や家族の希望の変化等がある場合は、随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、また、実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりを持ち、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう、努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関に受診することが出来、定期受診の他、体調不良時にはいつでも、相談する事が出来る。	利用者のこれまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関に受診することが出来るよう支援している。受診結果は基本的に電話で報告し、毎月のお便りでも共有されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携体制が整っており、日常の健康管理や24時間いつでも気軽に相談出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には協力病院の連携室と情報交換し、家族の希望等を考慮しながら、早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	日常の健康状態や急変時の対応について、利用者、家族、医療機関と話し合いを行い意識統一を図っている。	重度化・終末期対応の方針を明確にしている。医療機関や家族との連携を図りながら支援する体制整備があり、訪問看護との連携体制もできている。重度化した場合に備え、早期から利用者や家族の意向に考慮し、取り組んでいる。	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・夜間の対応を含めて緊急時対応マニュアルが作成されている。 ・AEDの講習を全員が受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、数日分の食料、飲料水及び、寒さをしのげる物品を用意している。また消防署の指導を受けながら、昼夜を想定した避難訓練を実施している。	夜間想定の手順・役割分担等についてマニュアルが作成されており、避難・誘導・通報の訓練を実施している。近隣住民の協力理解をいただいている他、併設ユニット・施設と連携を図っている。また、消防署への直通電話を設置し、災害時に備え、数日分の非常食を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないように、声掛けを行っている。また、笑顔で対応するように心掛けている。	プライバシーに関する研修を開催し、全職員へ常に利用者を尊重するケアとなるよう徹底している。また、排泄時は自室へ誘導し、利用者の羞恥心に配慮している。一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損なわないように細心の配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の力量に応じて、自己決定出来る様に声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや希望、身体、精神状況に合わせた支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性や希望を尊重し、好みの衣服を選べる様に支援している。また衣服や身だしなみの乱れは、さりげなくサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けや、食器拭きを促し、職員と一緒にやって行っている。また利用者と一緒の席に着き、食事を摂っている。	献立はグループ内で作成されるので、ユニットで利用者の嗜好に合わせ再編成している。利用者には可能な限り食器拭きを手伝ってもらい、職員と一緒に食事をとり、職員は食事の介助、声かけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日の水分量を概ね把握している。 ・食事、水分量を記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけし一人ひとりの能力に応じた、口腔内の洗浄、義歯の手入れを行い支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録し、全職員が把握している。また定時に声掛けを行っている。	一人ひとりの排泄状況を記録し、職員が把握しており、利用者の言動等から事前誘導をしている。尿意や便意の確認時、誘導時、失禁時の対応は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、利用者各自の自室トイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動への働きかけを行い、また工夫し便秘の予防に努めている。		

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を拒否する利用者さまには、曜日、時間を決めず、その時の状況を見て声がけ、促すよう努めている。	入浴日・時間帯は利用者の意向に合わせて、入浴を楽しめるように、個々に応じた入浴を支援している。入浴を拒否する方については、時間を変える・職員が交代で声がけする等の対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休めるよう努めている、また必要に応じて家族と医療機関に相談し、眠剤の服用を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の介助や見守りを行い、誤薬等が無い様に努め、また薬の変更等あった場合は本人や、家族は勿論、全職員に周知をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴やライフスタイルを把握し、一人ひとりに合った支援が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を出来るだけ把握し、気分転換に繋がるよう、外出できる機会を作っている。	本人の希望を把握し、気分転換に繋がるように外出する機会を作り支援している。また、施設のウッドデッキやテラスでも日光浴やお茶を楽しむ等外出気分を提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望や力量、そして家族の希望に応じて、金銭管理を行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けられる際、番号を代わりに押す等、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ソファやテレビ、新聞、マッサージチェアを設置している。また歌や体操を行うスペースを確保している。 ・季節の切花や鉢物を飾っている。	居室には木製タンス等設置されており、家庭的な雰囲気が感じられる。テレビの音量も適切であり、季節の切花や鉢物を飾る等季節感を取り入れ、心地よい空間作りの工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外にソファを置いているスペースがあり、利用者さまの団欒の場所となるよう、工夫努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた馴染みの物等を持って来てもらえる様に、家族へ積極的に働きかけている。	馴染みの物の持ち込みをお願いしており、居室には、家族の写真、利用者の趣味を活かしたぬいぐるみ等を壁に掲示する等、心地よく過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室に表札をつけて目印にしている。		